

日のハイ通信

日の出山

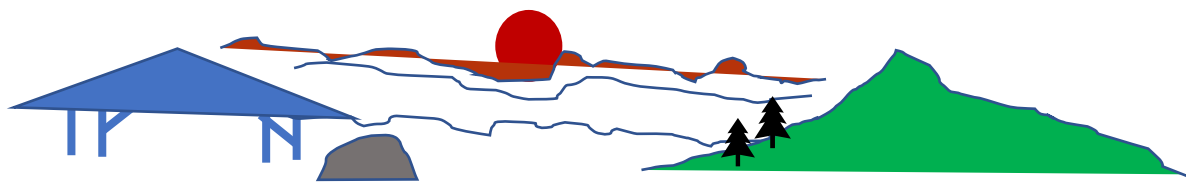
創刊号 No1

令和5(2023)年

1月10日発行

日の出町ハイキン

グガイドの会



さと山は光と風のハーモニー



日のハイ通信『日の出山』発行に際し

日の出町ハイキングガイドの会、発足から三年、新型コロナ感染症禍にあっても歩みを止める事なく自然に親しみ人々とふれあい、貴重な経験を積んできました。日の出友の会発足に伴い待望のガイドとして活躍の場が広がると同時にお客さんへの情報の伝達意思疎通を図るため会報を発刊する事になりました。

日の出町ハイキングガイドの会 会長 石川剛

友の会関連行事の紹介

ここでは、3月末までの関連行事についてご紹介いたします。

I. ハイキング(事前申し込み制)

1/12(木) 肝要峠・三室山・梅の公園方面

武蔵五日市駅前8:50集合

2/9(木) 羽生橋・羽生丘陵(横沢入り北側尾根)

・日の出団地・ミカン沢方面

JAあきがわ日の出農産物直売所8:00集合

3/16(木) 軍道・高明山・馬頭刈山・和田向方面

武蔵五日市駅前8:00集合

II. 登山(事前申し込み制)

1/7(土) 養沢・岩石園・御嶽山・つるつる温泉

武蔵五日市駅前8:10集合

2/23(祝) 肝要峠・三室山・愛宕神社・二俣尾

武蔵五日市駅前7:50集合

3/26(日) 丹三郎・大塚山・御嶽山・日の出山・

つるつる温泉 古里駅8:45集合

(JRのダイヤ改正により青梅～奥多摩間はワンマン運転となり、乗降にも注意が必要です)。

III. 日の出町ハイキングガイドの会関連

ここではハイキングガイドの会関連行事で、一般に公開される予定についてお知らせいたします。

3/4(土) 講演会『日本の山はなぜ美しい!』

講師 小泉武栄氏(東京学芸大名誉教授)

イオンモール日の出 2F イオンホール

17:30開場 18:00開演

3/5(日) モニターツアー第四弾

武蔵増戸駅前8:30集合

～大悲願寺～天竺山～羽生丘陵～日の出団地～

八坂神社～みかん沢林道～日の出町ふれあい

農産物直売所(解散)

3/19(日) モニターツアー第五弾(予定)

肝要～白岩滝～麻生山～日の出山～高峰山～

梅の木峠～つるつる温泉

以上、詳細は問合せ又はHPでご確認願います。

日の出山・日の出村から日の出町へ

現在の日の出町は町村推進合併促進法によって、昭和36(1956)年6月1日に大久野村と平井村が「日の出町」ではなく「日の出村」として発足したことに始まります。この合併は戦後の日本の変革の中で非常に大きなできごとで、明治22(1889)年

の市町村制の施行時よりも全国の地図を大きく塗りかえ、村は数えるていどしか残らなかったといわれています。昭和30(1955)年に両村が合併することになり、両方の村の頭文字を取って「大平村」の案もあったようですが、まとまらず東京都に調停を依頼したといえます。これに対して都の方では平井・大久野両村の西にそびえる日の出山の名をとって「日の出村」ではどうかと提案してきました。ここで合併した新しい村名は日の出のようにますます栄えることを願って「日の出」にきまったということです。みなさんはこのことをご存知でしたか。その後日の出村が町制施行に移行したのは昭和49(1974)6月1日になります。

ところで、「日の出町の昔話」(日の出町教育委員会発行 昭和54「1979」年発行)には「御嶽みちのビッキョウ」という話が載っています。短い話ですのでこの話の最初の部分を取り出してみます。

「その昔電車もバスもなくとても不便だった頃、大久野より貧乏山(日の出山)を通して御岳山への道が御嶽神社の表参道だったという。」とあります。

この昔話を読む限り日の出山の旧名は「貧乏山びんぼうやま」になります。朝日が最初に当たる日の出山がなぜ貧乏山と呼ばれていたのでしょうか。この山名の由来は御岳山との関係にあるようです。御嶽神社は古くから農業の神様として江戸を始め関東各地の参拝者で賑わっていました。御嶽神社のお札には「大口真おおぐちま神かみ」の文字とネズミやウサギ、イノシシなどを追い払う「お狗様いぬ」の姿が印刷されています。この「貧乏山」が存在することで信仰対象となる御嶽神社が隠れてしまいその山容を見ながら遥拝することを不可能にしていたわけです。このことが事実かどうかは分かりませんが、単に想像かもしれませんが、はっきりと分かる文献等が出てきたらぜひ教えてください。(文責 増澤強)

参考

「多摩の地名」(昭和54/1979年12月発行)

「日の出町の昔ばなし」(昭和57/1982年3月発行)

勝峰山 ガイド 吉澤 哲

勝峰山、日の出三山のひとつである。かつては石灰採掘でにぎわい、鉄道まで通っていたのだが、いまは静かな山歩きが楽しめる。この山は岩井交差点近くの登山口から登ることが多いのだが、今回は幸神尾根というマイナーなコースを歩く。



五日市駅北口から歩き出し、まいまい坂という史跡を通過する。畑や寺社の点在する里の風景の中を歩いて行くと、うっかり見落としそうな登山口がある。赤土むき出しのすべりやすい急登を登れば、小さなアップダウンのある里山歩きの始まりである。

このコースにはいくつか名前がついているピークがある。まず、頂上に小さなお地蔵様の鎮座する、その名も地藏山だ。再会のご挨拶と今日の山行の無事をお祈りする。しばらく歩くと、たくさんの動物の痕跡に気が付く。葉の無くなったアオキや、所々に落ちているフンである。

次のピークが、自分が山なら決して付けられない名前のためぐそ山だ。この名前も昔からの野生動物たちとのかかわりによるものなのだろう。

その後いくつかのピークを越え最後の急登を越えれば勝峰山登頂だ。頂上直下の展望台に行けば今日も快晴の下、素晴らしい展望が開けている。

今回、日の出友の会発足間もなくということでお客様一人に対し会長と私を含め5人での少しにぎやかな山行になった。花のない季節だが、晩秋ならではの明るく、すがすがしい山行になったと思う。お客様にも楽しんでいただけたら幸いである。

浅間岳ハイキング ガイド 土田 多喜雄

12月15日(木)ハイキングコースは、東秋留駅—草花神社—大澄山—浅間岳—羽村神社—羽村郷土博物館—羽村堰—羽村駅のコースです。

東秋留駅を8時過ぎに出発し北へ向かいます。途中西側は、畑が広がり障害物がないので、遠方には奥多摩の山並みや富士山、丹沢の山が驚くほどよく見えます。しばらく行くと大澄山の登り口です。メジロの地鳴きが聞こえます。そこを登ると大澄山と草花神社の分岐です。草花神社へと向かいます。草花神社からの眺めは、秋留台地、草花丘陵が眼下に広がり、遠方には奥多摩の山並みや富士山、丹沢の山が一望できます。ここから大澄山(192m)へ向かいます。眺めは木々で覆われていますが、羽村方面を一部見ることができます。しばらく行くと広い車道に出ます。道を渡って再度山へ入ると、小高い展望の良い所へ出ます。そこから西側にゴルフ場の芝の斜面を眺めつつ行くと、右側に多摩川、羽村の街並み、遠方には新宿副都心やスカイツリー、さらに筑波山、浅間山まで一望できます。左側のゴルフ場の脇を行くと浅間岳(235m)山頂に着きます。

この日はポカポカ陽気で山頂でゆっくり休みました。山頂から下山すると羽村神社が現れます。そこを経て羽村郷土博物館へ立ち寄り羽村の歴史を見学して、羽村堰を通り羽村駅へ12時30分に着きました。低山なのに素晴らしい眺望の良いコースでした。皆様も是非お出かけください。



ハイキングに参加して 高久なみ子

参加しましたきっかけは、近くの丘陵でもいいんです、すぐ近くのちょっとした山へ行ってみたいという希望からです。でも一人では行けないですよ、危ないし道も分かりません。何か良いサークルがあればいいのだがと思っている時、日の出友の会、に出会えました。

11月19日 勝峰山

急でしたが皆さんがゆっくりと合わせて下さり、登りきりました。途中で草花の名前を教えてください、葉が食べられてしまった草木も見ました、狸の糞もたまっていました。低い山をいくつか越えて、いろはもみじがきれいな勝峰山へ。展望台では、スカイツリーや高層ビルが見える素晴らしい景色に会えました。

11月24日 白山神社

神社までの道がいいですね、きれいに清められた神社へ到着、1000年以上のコウヤマキを見て色づいた木々の先に広がる景色、尾根道を通して日の出山荘へ、中を見学、もの知りになりました。

12月15日 浅間岳

東秋留駅から西の山々を見ながら、もう白くなった大菩薩、三頭山、馬頭刈山、日の出山を教えてくださいました。草花丘陵から富士山が大きく見えるのです、景色もすごくいいです。大澄山、浅間岳から筑波山までが、近くてもこんなに楽しい冒険が出来るんです。自分が行けないところに連れてってもらえて感謝です、ありがとうございます。

日の出友の会と日のハイ通信

日のハイ通信『日の出山』創刊号をお目に留めて戴き有難う存じます。ここでは当創刊号の発刊に至る経過について簡単にご紹介いたします。

I. 『日の出町ハイキングガイドの会』

令和2年4月発足の会で、ハイキングガイド養成講座や各種講演会・登山道の整備・里山ハイキングや山登りなど各種の事業を通して、地域貢献に努めています。観光まちづくり事業の一環として

日の出町の支援を受けながら、各種のイベントを実施し、リピーターの皆様に支えられ年々参加者が増加するなど充実した活動を続けています。

養成講座の修了生で組織するハイキングガイドの会会員も現在22名となり、モニターツアーや各種イベントの講師として活躍しています。



上は昨年12月11日(日)21名のお客様をご案内中の一コマです。天候にも恵まれ初冬の山々を眺めながら、里山のハイキングを満喫されました。

II. 『日の出友の会』

上記の各種イベントに参加された皆様からの強いご要望を受け新しく会員制の『日の出友の会』として発足。

この友の会会員対象のイベントも、昨年11月～12月の2か月間で、既に4回開催されました。

自然豊かな日の出町を始めとした奥多摩の山歩きを楽しまれています。

III. 日のハイ通信『日の出山』

友の会会員の皆様とハイキングガイドの会会員との懸け橋として、この度日のハイ通信『日の出山』を季刊誌として1月10日に創刊号を発行することになりました。

この季刊誌は、年四回発行を目指していますので、楽しみにして戴ければ幸いです。

次回の発行は、令和5年(2023年)4月10日を予定しています。

以上、これまでの経過をご紹介いたしました。何かご意見やご要望がありましたら、発行責任者(石川会長)あてメールなどでご連絡願います。

問合せ先：E-mail try.tie7@outlook.jp (石川)